

男子ソフトテニス部 R4総合体育大会 結果報告



★団体戦 西三河第7位 県大会出場！
★個人戦 1ペア県大会出場！（安藤・松村組）

4月17日(日)・29日(金)に総体西三河予選の個人戦が実施されました。

西三河は今年度272ペアが出場し、そのうち32ペアが県大会に進めます。その中で安藤・松村、持永・内藤、渡橋・浅井、浦島・岡本、大山・松本の5ペアが初日ベスト64に入り、2日目の県決めに進みました。県決めでは、強豪私立校や各公立校の主力ペアと対戦をし、その中で安藤・松村組が見事勝利を収め、県大会出場を決めました！また、敗けてしまったペアの中でも、持永・内藤組は私立のシード校相手にファイナルまで持ち込む大接戦を繰り広げました。この姿を2年生が見て、今後につなげてくれることを期待しています。

4月23日(土)・30日(土)に総体西三河予選の団体戦が実施されました。

強豪校揃いの西三河は今年度32チーム出場し、そのうち10チームが県大会に進めます。本校は、20年近くをさかのぼっても、団体で県大会に出場した記録はありませんでした。その経験がないチームが県大会に出場することの大変さを、それを成し遂げるには「覚悟」が必要だということ、大会以前から話をしてきました。

初戦の入り方が下手な豊田高校でしたが、1次リーグ初戦の人環大岡崎高校、2戦目の三好高校は、ゲームを取られても動じず、3ペアとも確実に勝利を収めました。そして、3戦目は第1シード、愛知県覇者の岡崎城西高校。どのプレーが通用するのかを確認して来なさい、と送り出し、ポイントは取ってデュースまではいくものの、3ペアとも0-4で帰ってきました。そして、2位通過という形で2次リーグへと進みました。

ここまではある意味予定通りで、2次リーグの2戦が勝負でした。1戦目は第9シードの刈谷高校。3ペアとも第1ゲームを落とすところからスタートするも、1本目の安藤・松村が相手の大将に4-2で勝利し、2本目の持永・内藤もデュースからゲームをきちんと取って勝利。3本目の細野・山田は調子が出きらず1-4で落とすも、団体戦としては2-1で勝利し、県大会に王手をかけました。

そして、県大会出場をかけた2戦目は第8シードの碧南高校。1本目の持永・内藤が相手の大将に3-0でリードするも、そこから挽回されてファイナルで惜敗。しかし、2本目の安藤・松村は0-2から巻き返し4-2で勝利。そして3本目の細野・山田も先ほどの敗戦を生かしたプレーで勝利し、西三河のベスト8、県大会出場が確定しました！



3次リーグ1対戦目は、豊田市内大会、新人戦と2度ストレートで負けている第3シードの松平高校。県大会が決まった勢いをぶつけ、1, 2本とも先に3ゲームを先取するもファイナルに持ち込まれ、持永・内藤は相手の大将に惜敗。しかし、こちらの大將安藤・松村は意地で勝ちきります。そして、3本目の細野・山田もファイナルで見事勝利を収めて、3度目にして勝利をすることができました。

2対戦目は愛産大三河高校。1本目の持永・内藤がゲームカウント2-2までいくものの、オールからゲームが取れず2-4敗け。残り2本も相手の1・2番手からはゲームを取れず、ストレートで敗けてしまいました。

3対戦目はノーシードから勝ち上がってきた豊田北高校。勢いよくここまで勝ち上がってきたチームに、1本目の持永・内藤が4-3で勝利を収めるも、2, 3本目は相手の勢いに完全に押され、1-4、2-4で落としてしまい、三つ巴の得失ゲーム差により3次リーグ4位になってしまいました。松平に勝って3, 4位が見えただけに選手は残念がっていましたが、それでも今までの本校の歴史を大きく動かして県大会に出場したことを誇りに思って最後の7位決定戦に臨みなさいと話をしました。そして西尾東高校にはストレートで勝ち切り、総体予選の団体戦は**西三河第7位**という結果で幕を閉じました。



<1次リーグ> 2位通過
本校 ③-0 人環大岡崎 本校 ③-0 三好 本校 0-③ 岡崎城西

<2次リーグ> 2位通過
本校 ②-1 刈谷 (④-2、④-1、1-④)
本校 ②-1 碧南 (3-④、④-2、④-1)

<3次リーグ> 得失ゲーム差で4位
本校 ②-1 松平 (3-④、④-3、④-3)
本校 0-③ 愛産大三河 (1-④、0-④、1-④)
本校 1-② 豊田北 (④-3、1-④、2-④)

<7位決定戦>
本校 ②-0 西尾東 (④-2、④-0) **西三河第7位 県大会出場**

5月21日(土)・22日(日)に総体の県大会が一宮市営コートにて実施されました。

愛知県は、個人戦は約900組、団体戦は100チーム以上が出場しています。その中の一部の選手しか立てない舞台に出場できるありがたみを感じながら、その舞台を楽しもうという気持ちで県大会に臨みました。

個人戦1回戦の相手は強豪私立の大同大大同。新人戦の県大会でも大同の別のペアと当たり、その時は1ゲームも取れずに敗けた悔しさがあったので、今回はゲームの入り方に気をつけました。そして無事に第1ゲームをとったものの、サービスゲームがうまく取れずにゲームカウント2-2に。しかし、それまでの展開で、ミスはあったもののラリーに前衛の松村がよく絡んだおかげで相手のミスが出始め、そこで得点を焦らずにプレーをし、最後は安藤の1stサーブに松村がモーションをかけて、相手のレシーブがサイドアウト、目標としていた「県大会で1勝」を達成することができました。続く2回戦は愛産大三河の大将ペアで、0-3からなんとか1ゲームもぎ取ったものの、1-4で敗けてしまいました。その相手のペアはその後インターハイ出場を決めていて、最後にインターハイレベルの選手と試合ができたことは良い経験だったと思います。

1回戦 安藤・松村 ④-2 大同大大同

2回戦 安藤・松村 1-④ 愛産大三河 愛知県ベスト64

翌日の団体戦は第2シードの享栄高校。1本目の持永・内藤は1ゲーム目からデュースに持ち込みますが、そこを簡単に取らせてもらえないのが強豪校。得意のパッシングや中ロブ、ストレート展開からのポーチなどで得点をするものの、ゲームを取らせてもらえません。2本目の安藤・松村も始めの3ゲームともデュースになる接戦をするも「2本連続」の壁を越えられず。3本目の細野・山田も細野得意のバックでのストレートパスが炸裂するも、ゲーム取得には至らず、0-3で敗れました。県大会に出てみて、このレベルの舞台で勝ちたいという思いが湧いてくるのを部員一同感じたと思います。この舞台を見せてくれた3年生に感謝して、それを後輩が引き継いでくれることを期待しています。

